

巻 頭 言

京都大学数理解析研究所

玉川 安騎男

日本数学会学術委員会の活動に、2015年7月から6年間は運営委員として、その後1年間はオブザーバとして携わり、本年6月末をもって計7年間の任を無事終えることができました。この間2019年7月から2年間は委員長を務めました。今回はそのご縁により数学通信の巻頭言の大役をおおせつかりました。

それで、巻頭言執筆の参考のために過去の巻頭言に目を通していたところ、私の前任の学術委員会委員長杉本充さんが、ちょうど2年前の数学通信第25巻第2号に巻頭言を書いておられることを思い出しました。杉本さんの巻頭言では、学術委員会の使命や現況、特にMSJ-SI（日本数学会季期研究所）の現状と課題について、軽妙な筆致でコンパクトにまとめられています。また、そこでもふれられている通り、MSJ-SIの設立経緯は、古田幹雄さんによる数学通信第16巻第1号の記事に非常に詳しくまとめられています。お二人の文章は数学会HPから入手することができますので、ぜひご一読をおすすめします。

読者の皆さんをお二人の記事に誘導することで、学術委員会の活動について紹介するという本巻頭言の所期の目的は達成されたと思いますので、ここで筆をおいてもよいのですが、以下落穂拾いとして少し蛇足を加えさせていただきたいと思います。

そもそも学会というのは学術の会（団体または会合）を意味しますので、学会の学術委員会というのは二重表現的な響きがあり、私も7年前に運営委員になるまでは、いったい何をしている委員会なのかよくわかっておりませんでした。ただ、この名称の由来はかなり古いようで、数学会HPの「日本数学会のあゆみ」の年表には、日本数学会の前身である東京数学会社創立からわずか3年後の1880年（明治13年）に、社則が改訂され学術委員を設けることが定められたとの記述があります。リンクをたどって当時の社則を見てみると、正式な呼称は学務委員だったようですが、「學務委員ハ學術上ニ係ル事業ヲ負擔シ研究討論以テ數理進歩ノ道ヲ講ジ併テ雑誌編輯ヲ自任ス」との規定があり、「学術」の文言が明示されています。おそらく現在の学術委員会、出版委員会、編集委員会などを兼務していたのではないかと想像されます。

現在の学術委員会内規では、「学術委員会は、日本数学会の学術的活動の重要事項について審議し、理事会に対する提言、理事会の諮問に対する答申、および提言答申

事項の実施支援を行う」と規定されており、主要な活動はMSJ-SIの公募・運営および年会・秋季総合分科会における総合講演者候補の推薦の二つとなっています。

MSJ-SIの経緯や現状については、上述の古田さん、杉本さんの記事をぜひご覧いただければと思います。MSJ-SIは、通常は実施3年度前の秋の数学通信第3号で公募を開始し、実施2年度前の5月末を応募期限としています。国際研究集会の企画・準備は大変な作業になりますが、ぜひ分野の皆さんで相談して積極的な応募をしていただければと思います。MSJ-SI開催に当たっては、数学会から助成金が提供されるだけでなく、事務面についても一定のサポートを受けることができます。また、年会・秋季総合分科会の際に開かれる学術委員会の会合では、当該年度のMSJ-SIの組織委員長と次年度以降に開催予定のMSJ-SIの組織委員長にもご出席いただき、開催報告や準備状況報告をお願いしています。組織委員長の皆さんにはご面倒をおかけしますが、私は、これが単発の国際研究集会とは違ったMSJ-SIの大きなメリットだと感じています。実際、この会合では通常の外形的な報告ももちろんしていただきますが、それだけにとどまらず、組織委員長と学術委員会構成員（特に委員長や担当理事）との間や先輩組織委員長と後輩組織委員長の間で、情報交換・意見交換が活発に行われており、新たに組織委員長になられた方にとっては、採択から開催までの間、半年に一度ざっくばらんに何でも質問できる心強い場となっていると思います。

年会・秋季総合分科会における総合講演者については、各分科会責任評議員、理事、過去5年間の日本人総合講演者に推薦を依頼し、そのリストを中心に、1つ前の学会の際の学術委員会の会合で審議して理事会に提案します。毎回必ず推薦して下さる分科会もある一方、何年にもわたってほとんど推薦されていない分科会もあるようです。多くの被推薦者リストを基に適切な講演者候補を選考するために、各分科会におかれましては、ぜひ積極的な推薦をしていただければと思います。

学術委員会の活動に7年間携わっての感想ですが、これまでに経験した数学会のいくつかの委員と比べて、委員会の会合等における（主にMSJ-SIと総合講演に関する）実質的な学術的議論の比重が大きく、さまざまな分野の委員によって自由に活発な議論が繰り広げられていると思います。その意味でも学術委員会の名にふさわしく、上述の東京数学会社の社則における「學術上ニ係ル事業ヲ負擔シ研究討論以テ數理進歩ノ道ヲ講ジ」という規定が現在も文字通り生きているのではないかと感じます。

最後に、蛇足の蛇足として、巻頭言について（数学者らしい？）問題提起をして終わりたいと思います：皆さんも私も「巻頭言」と言っていますが、これって「号頭言」ですよね？！（インターネットで少し調べたところ、日本糖尿病・肥満動物学会のニューズレターでは「号頭言」という言葉を使っているようです。）